



# 学校だより 5月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



## はじめの一步

校長 西山 久美子

さわやかな青空が気持ちのよい季節になりました。朝の廊下には、かわいい歌声が聞こえています。～小さな鳥が 歌っているよ ぼくらに朝が おとずれたよって～これは「はじめの一步」という歌の出だしです。1年生も歌の本を見ながら CD に合わせて一生懸命声を重ねています。聞いていても、一緒に歌っても元気がでるひと時です。

ところで、ここ数週間の出勤途中、近所の森の近くを通ると「ケキョ」「ホー」「ホケホケ」と鳥の声が聞こえてきました。駅に近づく頃には「ホーホケキョ！」と何ともいえない美しいさえずりに変わり、そのまま何度も何度も春の歌声を響かせていました。今日もいい声だなと学校への足取りも軽くなります。ホーホケキョの鳴き声に変わるまでの「ケキョ」「ホー」は、ウォーミングアップのように感じ、もしかしたらウグイスも本格的な活動に向けて、徐々に慣らしているのだなあと、勝手に想像していました。調べてみると、ウグイスは一年中鳴くそうなのですが、いわゆる春告鳥と言われるウグイスの「ホーホケキョ」は、この時期ならではのもののようです。

さて、私たち人間も、いきなり何かが完璧にできることはほとんどありません。小学生のころ、逆上がりの習得にどれだけ時間を費やしたか。楽器演奏では、同じ小節を何回繰り返し練習したことか。当たり前前にできていることも、それまでの間に準備し練習し少しずつ力をつけてきたのです。学校での学習でも、繰り返し取り組み、時には迷ったり失敗したりしながら知識や技能を身に付け、できることを増やしています。よりよいものにしようという意欲や仲間と学びを深める態度なども、一つ一つの積み重ねが力となります。もちろん学習だけではありません。人とのかかわりでも同様です。初めは挨拶からかもしれません。「ありがとう」や「ごめんね」などのやり取りを経験しながら、相手の気持ちを想像する力をつけたり、友達への思いやりの気持ちを育てたりして豊かな関係を築いていくのです。私たち大人は、子どもたちが成長する過程において、その頑張りを大いにほめて、励まして、愛情をもって指導していくことが大切であると思います。そして困ったときには、どうしたら乗り越えられるか、どうしたらよりよい方向に一步を出せるか、一緒に考える姿勢でいたいとも思っております。

学校生活もはじめの一步から何歩か進みました。新しい学年での生活が3週間過ぎ、1年の目当てを掲示したり、係活動を決めたり、少しずつ前へと歩んでいます。今は、新しい生活で自分の力を大いに発揮するための、ウォーミングアップの時間を大切にする時期かもしれません。学校では、子どもたちにしっかり寄り添いながら、引き続き一人ひとりを大切にした支援に取り組んでまいります。

今月の歌「はじめの一步」の1番の最後は「～勇気をもって大きく 一步 歩き出せ～」です。子ども達が自信をもって歩いていく姿を願いながら、一緒に歌を口ずさみたいと思っています。